

議題（2）「令和5年度食品安全委員会運営計画（案）」に  
関して御提出いただいた御意見及び御質問

資料 2-1 について

○ 川崎専門委員

【御意見等】

資料番号	ページ番号	項目
2-1	1	第2（6）

意見内容

【意見内容】

今後進めていくDXに関して、リスク評価の効率化にとどまらず、緊急時対応の迅速化の観点においても取り組むべきではないか？

【意見の理由】

資料3-1の緊急対応訓練結果実施報告のP.13に《重点課題》（1）として、「①緊急時における初動対応を迅速かつ確実に行える体制を強化する」とあり、言うまでもなく非常に重要なことである。特に食品安全に関するレアケースの緊急事態が発生した場合などにおいても対応できるようなシステムを構築するためにはAIの活用などDX化が有効ではないかと思われる。

## ○ 今村専門委員

### 【御意見等】

資料番号	ページ番号	項目
2-1	2	第3. 2

#### 質問内容

「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」等の改正に向けた調査審議、および疫学研究で得られた用量反応データにベンチマークドーズ法を適用する場合の手順や考え方の整理に向けた検討について、進捗状況をご教示いただきたい。

【資料2 参考2】3 ページ右側の R4 年度運営計画では「本年度においては、遺伝子組換え食品等について～改正を検討する」の記載があり、今回は「改正に向けた調査審議を引き続き行う」とされているが、具体的にはどのような調査審議が行われているのか教えていただきたい。

【資料2 参考2】3 ページ左側の R5 年度運営計画で「改正後の安全性評価基準に基づき、評価を行うための『考え方』の整理の検討を進める」と新規で記載されているが、具体的にはどのような『考え方』の整理の検討をされているのか教えていただきたい。

【資料2 参考2】3 ページ右側の R4 年度運営計画で「ベンチマークドーズ法について～改正を検討する」と記載があったのが、R5 年度運営計画では削除されているが、この検討はどうなったのか教えていただきたい。

## ○ 足立専門委員

### 【御意見等】

資料番号	ページ番号	項目
2-1	5	第6

### 意見内容

#### 【意見内容】

意見交換会等の開催について、対象者、規模等に応じて、web 会議システム、対面形式、ハイブリッド方式を検討することは、とても良いと思います。それぞれのメリット、デメリットを整理して、開催方式それぞれでのより良い進め方を具体的にまとめてはいかがでしょうか。

#### 【意見の理由】

開催方式により性格が異なり、例えば、web 会議システムは、対面形式と比較して、タイムラグが生じ、意思疎通がとりづらくなります。ハイブリッド方式では、対面・web 会議の違いに配慮する必要があります。現在も工夫をされていると思いますが、整理して、より良い運営となるようにと考えます。